令和6年度F工房活動報告書

1. 学生ファシリテータ（以下、学ファシ）の養成

1-1. 学ファシの人数

	学ファシ					合計
	4年次	3年次	2年次	継続	新規	
第14期	15名	35名	42名	40名	52名	92名
第15期	19名	25名	49名	37名	56名	93名

※翌年度の年次で記載

第15期学ファシ人数は、第14期とほぼ同規模であった。なお、第15期学ファシ93名のうち4名の学ファシが研修日程と他の活動との両立が困難となったこと、モチベーションの低下等を理由に活動の辞退を申し出た。さらに8名は研修期間中に無断欠席をしたり、連絡が取れなくなる等の理由により登録から除外する対応を取ったため、令和7年3月末日時点で81名の登録となっている（第14期活動期間の辞退者および登録除外者は17名であった）。

1-2. 第14期後半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程・期間	概要	分類
1	「自己発見と大学生生活（以下、「自己大」）」 授業運営支援 ※受講生（初年次生）が「対話」を通して大学生生活に対する自分なりの「方針」を持つことを目指すキャリア形成支援教育科目	令和6年 4月～7月（全15回）	学ファシはアイスブレイク運営や大学生活に関する話題提供、グループワーク支援、受講生へのフィードバックなどを行った。	実践
2	「先輩の体験談」スピーチ対策：駆け込み寺	令和6年 4月17日（水）、18日（木）	「自己大」第3回授業で学ファシが話題提供する「先輩（学ファシ）の体験談」スピーチに対して不安があるという学ファシを対象に個別支援を実施。	その他
3	「自己大」授業運営支援に伴うクラス状況報告	令和6年 4月19日（金）～ 4月26日（金） 6月10日（月）～ 18日（火）	「自己大」授業運営支援での各クラスの状態把握を目的に、各クラス2回のクラス状況報告を実施。	その他
4	第15期新規学ファシ募集説明会の企画・運営	令和6年 5月下旬～7月下旬	第15期学ファシ募集説明会の企画・運営メンバーを募った。運営メンバーは、説明会に向けた企画を検討した。	その他

6	ふりかえりの集い	令和6年 8月9日（金）	約1年の学ファシ活動を振り返り、学びや気づきを言語化することを目的に実施。	研修
---	----------	-----------------	---------------------------------------	----

※上記の他、学ファシ自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画の取り組みが学ファシ自身によって複数行われた。

■取り組みの成果と課題

今年度の特徴的な取り組みは下記の通りである。

1) 「自己大」授業運営支援

第14期学ファシは活動者75名のうち、春学期授業期間中は留学や休学等個人の事情により、「自己大」での活動には参加しない7名を除く68名が「自己大」授業運営に参加した（前年度72名）。今年度は30クラス全てに3名の学ファシを配置することができた。配置にあたっては、単に学ファシの空きコマに基づき人数を揃えるだけでなく、円滑な授業支援に向けた教員との協働のため学ファシの経験値や個性等を考慮して多様な学ファシ同士を組み合わせ、担当クラスを決定するという熟考を要する作業を経ている。

教員同士の情報交換会では、複数の教員から「臨機応変な対応力が年々高まっている」「例年に比べて介入や声かけが細やかだった」といった声が寄せられ、事前研修の成果が感じられた。

2) 「自己大」クラス状況報告

授業運営支援での受講生の様子や教員との協働・学ファシ同士の協働の様子の把握、トラブルを未然に防ぐため、クラス状況報告を授業期間中2回実施した。昨年度と同様、各クラスの代表者が昼休みを利用してF工房職員に、より気楽にクラスの状況を報告する形式で行った。報告内容から必要に応じて詳しくヒアリングするようになった。

3) 学ファシによる自主企画

継続学ファシを中心に、学ファシ自身の興味・関心や意欲に基づいた自主企画が複数行われた。2年前よりファシリテーション研修の内容を大幅に見直し、研修においてプログラムデザインの視点を伝える等、内容を充実させてきたことの一つの成果として捉えることができた。プログラムデザインの視点を持つことが学ファシの中に定着しつつあり、イベント等を自主企画する先輩の様子を見て自分もチャレンジしようとする様子が見られるようになってきた。

➤ One ファシ

第12期より実施してきた有志の学ファシによる企画で、ワークを通して交流を楽しみながらファシリテーションについて簡単なレクチャーが受けられるプログラム構成になっている。前期に引き続き、企画している学ファシの興味・関心から、対話（はなし）を見える化する手法であるグラフィックファシリテーションをテーマに実施していた。

➤ 新入生歓迎ワークショップ

「大学生活の夢や目標を聞かせてください！」と題して本学の新歓祭にあわせて新入生歓迎イベントとして実施。企画の枠組みは職員が用意したものの、当日の運営方法やプログラム内容の考案や事前準備等は有志の学ファシが主体的に担った。当日は学ファシが参加者一人一人と対話して大学生活の夢や目標、これから挑戦したいこと等を聞き、それを絵や文字、図を使って色紙カードに描いた。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

新入生歓迎ワークショップ (https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20240412_875_gakufashi02.html)

➤ Flat(ふらっと) F工房!

「学ファシに興味がある」、「学ファシについてもっと知りたい」という1年次生からの要望に応え、有志の学ファシが企画し、当日は複数の学ファシの協力のもと実施した。前半は自身の興味や関心などを書き出して自己紹介しあった後、後半はフリートーク&質問タイムとし、参加者から学ファシへ様々な質問があった。全体を通して参加者と学ファシ、また参加者同士が親睦を深めた。

➤ 「学ファシ×京都文教大学広報チーム」交流会

「活動を通して成長をしたい」という思いをもって主体的に活動をしている学生団体同士の交流により、双方に大きな刺激が生み出されることを目的として実施。企画段階から事前準備・当日の進行まで全てを有志の学ファシ3名と文教生3名が担った。当日は双方の団体の活動内容を紹介した後、3つのグループに分かれて「やりたいこと」「広報チームの強み」「学ファシの強み」のテーマで意見やアイデアを出し合い、話し合われた。

➤ 神山祭の出展

「学ファシの認知度を高めたい」「学ファシ同士の関係性を強めたい」と考える学ファシらが中心となって有志のメンバーを募り、部展および模擬店に参加した。部展では、ポスターによる活動紹介に加え、今までの活動での経験を活かしたワークショップ(アイスブレイク体験会)を実施。部展・模擬店ともに学ファシ同士で主体的に協働したこと、多くの人が来場したことで、参画した学ファシらのモチベーションや団結力を大いに高めた。企画の立案は第14期後半に始動し、実現に向けては第15期の新規活動者も当日サポートとして巻き込む等、長期間にわたる企画となった。なお、職員は資料提供や備品貸し出しのみで、殆ど関与しなかったが、学ファシが主体となって企画し実現した新たな取組であった。

4) 第15期新規学ファシ募集説明会の企画運営

第14期活動者9名が企画・運営メンバーとして職員と共に募集活動を行い、募集説明会における学ファシ担当パートの企画・運営を担当した。説明会では学ファシ活動の体験談を発表し、オンライン質問ツールを用いた質疑応答も運営メンバーが進行した。

■第14期の総括

「自己大」担当教員から寄せられるフィードバックから、事前研修の学びを踏まえて介入や声かけの精度が高まったことが伺えた。

第13期から引き続き、学ファシ主体の自主企画が多く実施された。企画した有志の学ファシの中には新規活動者も含まれ、多くの学ファシにとって自主企画のチャレンジは特別なことではなく「やりたい人は誰でも自分たちで企画して場をつくることができる」という認識が定着しつつある。

また、第15期新規学ファシ募集説明会や後述する学外機関との協力における企画等でも、職員の予想を上回る多くの学ファシが参画し、自分たちの活動やその有意義さを多くの人に伝えたいと考える学ファシは増加傾向にある。

1-3. 第15期前半の活動

■活動一覧

	タイトル	日程	概要	分類
1	第15期 新規学ファシ募集 説明会	令和6年 7月19日(金)、22日 (月)、23日(火)	新規活動希望者を対象に、学ファシ活動の概要や応募方法等について説明。その後、学ファシ担当パートにおいて運営メンバーが学ファシ活動の体験談を学生目線で発表した。	説明会
2	ファシリテーション 研修 【必須参加/全3回】	令和6年 9月20日(金)、10月31 日(木)、12月21日(土)	第15期学ファシ同士が関係性を構築すること、ファシリテータの役割を知り、その役割を果たすうえで大切な心構えやスキルについて体験的に学ぶことを目的に実施。4年次生サポーターが運営に参画した。	研修
3	「自己大」事前研修 【必須参加/全3回】	令和7年 2月10日(月)、3月25 日(火)、26日(水)	「自己大」の教育目標および学ファシの役割理解を目的に、統括・副統括教員と協働しながら研修を実施した。 【研修内容】 ・チームビルディングに必要な対話の場をつくる方法の体験 ・多様な人と場を共有するための準備 ・学ファシ1人1人が授業内で運営するプログラムの準備・練習、テーブルファシリテータの体験	研修

■取り組みの成果と課題

近年、少しずつ成果があがっている学ファシが自ら活動の場をつくっていく仕組みづくりについて、さらに学ファシのなかに社会との接続の視点が醸成されつつあり、興味・関心やチャレンジの広がりが見られる。この意欲に応えるため、さらに多様な活動場面と協働の機会を学ファシと共に創出していきたい。

1) ファシリテーション研修

学ファシ同士の関係性構築とファシリテータの役割を知り、その役割を果たすうえで大切な心構えやスキルについて体験的に学ぶことを目的として、全3回の研修を実施した。昨年度までは土曜日午前に1回3時間の研修を合計5回実施していたが、職員の勤務体制の課題から研修内容と構成を整理したうえで実施時間と回数を見直した。次の研修までの期間が開くことによるモチベーションの低迷を防ぐため、研修後にグループでF工房に集まって話す事後課題を設定した。結果、学ファシ同士の関係性構築を促すと同時に、新規活動者も含め学ファシ全員がF工房に来室したことでコミュニティの拠点という認識を強化することにもつながった。一方で、研修の実施回数が減ったことによって、1日もしくは半日のみの欠席が大きな後れとなってしまったため、対応に苦慮した。特に、本人に活動のモチベーションはあるものの土曜日の午後に授業や部活動などがある場合も多く、フォロー体制などは検討する必要がある。

また、研修の運営には、4年次生11名がサポーターとして関わった。サポーターとして参画

する4年次生は年々増加しており、自分たちで学びの場をつくっていききたいという気概も年々高まっている。一方で、役割分担など運営の複雑さも増しているため、4年次生の意欲に応えつつ、研修の質を担保する工夫を検討したい。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

第15期活動始動（https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20240920_875_gakuf.html）

2) 外部委託によるファシリテーション研修のサポート効果

過年度と同様に職員の業務負担軽減や学ファシ活動の質向上を目的に、外部委託によるF工房職員に対するコンサルティングや研修における企画・運営のサポート等を依頼した。特に今期は、先述した4年次生サポーターとの協働における運営の複雑さを踏まえて、4年次生へのフィードバックやコーチング的な関わりについて模索するため、協議検討を重ねた。今期のサポーターの中には、グラフィックファシリテーションに積極的に取り組んできた4年次生がおり、研修でも外部ファシリテータとともにグラフィッカーとしてグラフィックレコーディングに挑戦した。その場で起きたことをチームでグラフィックとして描き起こす経験は、挑戦した4年次生の個人の成長はもちろん、他の学ファシらにとっても先輩の活躍ぶりを目の当たりにし、学びの意欲を高めるよい刺激になった。

また、ファシリテーション研修では、多様なファシリテータの在り方を提示するため、実体験に基づくエピソードを語るトークセッションを行った。これに外部ファシリテータも登壇したことで、学生は多様な現場でのファシリテータの活躍を知ると同時に、ファシリテータの個性を活かした関わり方・活躍の仕方を知ることができた。

研修後半では、各グループに1名ずつ外部ファシリテータまたは4年次生サポーターがついて、グループワークのプロセスを見守り、ワーク後のふりかえりではフィードバックを行った。このような丁寧な関わりによって、学ファシは俯瞰的・客観的な視点を得ながら、深く対話することができた。

■第15期前半の総括

今期は、研修の実施回数は減ったものの、事後課題を設定したこと、学ファシ同士が主体的に交流会などを企画したことなどによって、学ファシ同士のつながりは例年より強いように感じる。その影響か、新入生オリエンテーション等には多くの新規活動者が参画した。こうした活気が活動に対するモチベーションを後押しし、より主体的な団体運営につながるよう、チャレンジの機会を創出する等、仕組みづくりに注力したい。

2. FDに関する取り組み

2-1. 授業の見学

公開授業&ワークショップ：F工房職員による授業見学なし

2-2. 教育支援研究開発センター主催研修会

「全学FD/SD研修会」、「しゃべり場」：F工房のプログラム参画なし

3. F工房サポートプログラム

■依頼件数：5件（のべ5回）

≪プログラム種類別の内訳≫

プログラム種類	件数
学内他部署との協働	2
授業の支援	3
課外活動の支援	0

※詳細は別紙「プログラム種類別の詳細」参照

※件数は依頼者の担当プログラムおよび担当科目ベース

≪支援内容別の内訳≫

支援内容	回数
ワークショップ・授業の運営支援 （コンテンツ運営）	5
見学・フィードバック	0
ワークショップ・授業の設計支援 （助言・情報提供）	0
学ファシ派遣	5

※支援内容別の内訳は、依頼1件に対し複数の支援を同時に実施する場合があるためのべ回数を記載（事前打ち合わせ・ふりかえりは除く）

※「自己大」は授業期間中、学ファシの派遣を通じて全クラスの運営支援に関わるため回数を出しづらいことから1回でカウント

■今年度の特徴的な取り組みと今後の課題

1) 法学部プレップセミナー

昨年度に引き続き参画した学ファシ2名と新規活動者2名がチームとなり、当日の授業運営だけでなく、クライアントである教員との事前ヒアリングや、事後のふりかえりを目的とした打ち合わせにも参画した。教員側のニーズについて丁寧に聞き取りつつも、学生ならではの視点でプログラムデザインに挑戦した。

2) 京都文化フィールド演習N

参画した学ファシ6名のうち5名が文化学部にも所属しており「同じ学部の後輩のために活動したい」と考え、プログラムデザインの提案や当日の進行を担った。自分の経験談なども踏まえて受講生に語り掛ける等、授業の目的をくみ取りつつ自分らしい言葉で受講生に主体的に関わった。

■F工房サポートプログラムの総括

依頼件数は5件（のべ5回）であった。昨年度より特に強化してきた依頼のあった案件に積極的に学ファシとの協働を取り入れることについて、今年度依頼のあった5件全てでこれを実現することができた。今年度は過年度に比べ、授業支援に参画する学ファシの人数が全体的に多く、「自己大」のみにとどまらない活動への参画意欲が高まっていると感じた。こうした活動の意欲に応えられるよう、今後はF工房サポートプログラムの学内認知を高め、学ファシの活動機会を積極的に創出していきたい。

4. 学外での発表・講演

4-1. 学外への講師派遣：実施なし

4-2. 学外での発表

大学教育学会 2024 年度課題研究集会 ポスターセッション

□日時：令和6年11月16日（土）10：30～12：45

□場所：新潟大学 五十嵐キャンパス

□発表テーマ等

「F工房と学生ファシリテータの活動の変遷 ―準正課における学生の成長と職員の関与について―

- 発表者：F工房職員3名、高等教育担当職員3名、事務長、センター長

□概要

大学教育において、正課だけではなく正課外教育を通じた学生の成長実感や成長実感を促すプロセスである教職員の関与を明らかにすることは、学習者主体の教育の実現に向けて重要である。本ポスターセッションでは、正課外教育を通じた学生の成長と教職員の関与の事例として、F工房の変遷と学ファシを養成するプログラム、学ファシの成長実感について発表した。

大学コンソーシアム京都 第30回FD・SDフォーラム

□日時：令和7年3月1日（土）12：30～14：15

□場所：龍谷大学 深草キャンパス

□発表テーマ等

「拡がる！学生ファシリテータの活動 ～集まる多様なモチベーション～

- 発表者：学ファシ2名、F工房職員1名

□概要

学ファシの活動には必須参加の活動と任意参加の活動があるが、任意参加の活動の幅が広がっている。学内の授業支援や中学校の校外学習に協力するなど学内外から依頼を受けて活動することに加え、他大学の学生スタッフとのワークショップや学園祭での出展など学ファシが自ら活動の場をつくることも増えた。しかしこれらの任意の活動は人によって参加頻度に差が生まれている。このことを踏まえ、学ファシの活動へのモチベーションや抱く想いは一様ではなく多種多様なのではないかと考え、調査を行い考察したことを発表した。

□成果

今年度は、継続学ファシ1名、新規学ファシ1名がチームとなって本発表に挑戦した。割り当てられたブースの前が狭く一度に多数の聴衆が集まりづらかったが、その分、学生は来場者にポスターの内容を説明したり、質問に答えたりするなど、一人一人とじっくり対話しながら自分たちの伝えたいことを自分の言葉で伝えることができていた。職員は、発表内容そのものより、学ファシ活動の体制やこれまでの変遷などに関する質問への対応をした。学生たちは楽しみながら堂々とした態度で丁寧に説明できており、自信や達成感も得られ、活動へのモチベーションも向上したようであった。

□課題

例年、学ファシが自らの興味・関心等を話し合っ発表テーマは決め、アンケート調査をしている。しかし、自分たちの伝えたい内容を裏付けるような情報を収集すること、またそれらを順序立てて説明することなどが難しいと感じる場合がある。今年度から代表者氏名が教職員になったことも鑑みて、次年度以降は調査をする場合にはアンケート調査等の基礎・基本を理解できるよう、何かしらのサポートが必要である。また、今年度は当日

までの準備段階において学生同士で意見の調整が困難な場面があり、準備段階で1名が途中離脱し、2名での発表となった。4年次生サポーターや打ち合わせを可視化するグラフィッカー要員等、サポート体制は整えていたものの、チームビルディングや合意形成のプロセスには、職員も丁寧に伴走できるような体制を整えることの必要性が課題として挙げられた。次年度以降も学生の主体性を尊重しながら状況に応じて丁寧に関わっていききたい。

5. 学外機関との協力

舞鶴市立若浦中学校 2年生校外学習の受け入れ

日時：令和6年6月27日（木）10：15～11：30

場所：Innovation HUB

参加者：43名（中学生31名、学ファシ12名）

概要

生徒同士の「学び合い」を授業の核として全教科でグループ学習が実施されている若浦中学校では、生徒の皆さんが日ごろから様々な場面でファシリテーションを実践しながら学びを深めている。同校の教員より、2年生の校外学習においてF工房で実践しているファシリテーションに触れ、発言しやすい雰囲気作りなどを体験的に学び、日ごろの学習の場づくりに活かすことを目的として本学訪問の依頼があり、実施した。

事前準備では、職員と有志の学ファシが意見交換しながらワークショップのプログラムをデザインし、当日は、「ファシリテータについてみんなで語り合おう！」をテーマとするワークショップを行い、中学生と共に学ファシ12名が参加した。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20240627_875_gakufashi.html)

成果

中学生対象のワークショップという学ファシにとって貴重な機会とあり、多くの学ファシが参画した。参画した学ファシの全員が「大学生として自分たちが一方的に答えを示すのではなく、中学生らが自ら考える手助けをしたい」と語り、関わり方を主体的に模索することができた。結果、最初は緊張した様子の生徒さんも見られたが、グループワークで自分の意見を伝えたり他者の話を聴いたりしながら多様な考えに触れるにつれて、笑顔で学ファシとやり取りする姿が見られた。

課題

中学生の授業時間に合わせてプログラムデザインする必要があったため、学ファシ対象の研修ほどのワーク時間は取れず、対話を促すには少々強引な構成となった。短時間でも納得感の得られる対話を促す問いやワーク設計について模索したい。

6. その他

F工房15周年交流イベント ～ふりかえり&語りあいの集い

日時：令和6年9月28日（土）10：30～12：30

場所：T201教室

参加者：44名（卒業生、現役学ファシ、教職員）

概要

F工房は、文部科学省学生支援GPに採択された「京産大発ファシリテータマインドの風」という取組の場として2009年に開設されてから今日までファシリテーションのスキ

ルやマインドを広く学内に向けて発信・普及することを通じて、支援型教育を学内に定着させることを目指してきた。今年度、開設から15年となった。

本イベントは、F工場の立ち上げに尽力された教職員、その後のF工場と学ファシの発展に関わった卒業生・教職員が集い、現役の学ファシと15年間の歩みを振り返りながら今後の展望や可能性を語り合うことを趣旨として開催した。

□成果

F工場の立ち上げ当時に学ファシとして活動していた方から今春卒業した方まで幅広い年代の方々に参加いただくことができた。また、当日は7名の現役学ファシが職員と共に運営を担い、うち2名がイベント全体の様子を可視化する手法「グラフィックレコーディング」の描き手としても関わるなど、学ファシを巻き込んで実施することができた。

グループワークでは、世代の異なる参加者がそれぞれの思い出話に花を咲かせるなかで、開設当時から現在まで変わらずF工場と学ファシが大切にしてきたファシリテータマインドを再確認することができた。多くの卒業生が「日ごろの職場では対話が足りていない、何とかしたい」と語り、こうした機会に対話の大切さを実感し、それぞれの職場等に持ち帰って実践することで、F工場のファシリテータマインドが社会の対話の場を支えることにつながるのではないかと感じた。

実施後のアンケートでは、継続的な開催を望む声が多く寄せられ、多くの卒業生にとってF工場が物理的なものを超えた居場所になっていることがわかった。また、在学中の学ファシとしての経験を仕事だけではなく幅広い社会の活動のなかで生かされているとの声も多く、こうした卒業生の実体験を現役学ファシが聞くことで、長期的な視点で学ファシ活動の意義を捉え直す良い機会にもなった。今年度は「F工場の15年間の歩みをふりかえる」という切り口で開催したが、今後はF工場および現役学ファシの社会との接続の機会として、継続的な実施を検討したい。

□その他

本イベントは、大学主催のホームカミングデーの一環として実施された。同日の午後に行われた卒業生が集う交流会では、社会連携推進機構の依頼により現役学ファシがアイスブレイクを行った。学ファシの進行のもと、初対面や年代が異なる卒業生同士がグループとなって自己紹介しあい学生時代の思い出などを語りあう等、活発な交流が行われた。

詳細はキャンパスフラッシュ参照。

(https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20240928_875_fkobo.html)

(https://www.kyoto-su.ac.jp/wr-news/20241022_854_homecomingday.html)

以上

【別紙】令和6年度 F工房による F工房サポートプログラム実績：プログラム種類別の詳細

1) 学内他部署との協働 (2件) [前年度実績：4件]

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
1 4/4	導入教育プログラム「自己の探求プログラム」 (2024年度入学生対象)	理学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型グループワークプログラムの設計支援、学ファン派遣、プログラム運営者(学ファン、学部の先輩学生、教員)向け事前研修の運営
2 4/5	新入生グループワーク (2024年度入学生対象)	情報理工学部事務室	1			○	学部が主催する新入生を対象とした参加型オリエンテーションプログラムの設計支援、学ファン派遣、プログラム運営者(学ファン、学部の先輩学生、教員)向け事前研修の運営

2) 授業の支援 (3件) [前年度実績：3件]

共通教育科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
1 4/8~7/23	自己発見と大学生活	初年次教育センター	30クラス ×15回			○	全30クラス、15コマへの学ファン派遣、学ファン向け研修プログラムの設計支援・運営、春学期授業期間(4月~7月)における学ファンの活動支援

学部専門科目

日程	プログラム名	依頼者所属	コンテンツ運営	見学・FB	助言・情報提供	学ファン派遣	概要
2 4/25	ブレップセミナー	法学部	1			○	学部初年次科目において受講生がグループワークに主体的に取り組めるようプログラムをデザイン・運営
3 5/10	京都文化フィールド演習N	文化学部	1			○	グループでコミュニケーションをとりながら、協力してまとめる作業に親しめるようになるためのレクチャーおよびワークを実施

3) 課外活動の支援 (0件) [前年度実績：0件]